

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|--------------|--------------------------------|----------------------------------|
| 課題番号 | 20221005 | 研究期間 | 平成20年度～平成24年度 |
| 研究課題名 | 環動高分子材料の動的制御 | 研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在) | 伊藤 耕三（東京大学・大学院新 領域創成科学研究科・教授） |

【平成23年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 |
|--|--|
| | A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| (意見等) | |
| <p>環動高分子材料の基礎的研究から応用研究まで広く研究展開している。合成から物性、さらには応用展開にいたるまで陣容を配して今後を着実に研究が進展するものと思われる。十分の数の学術論文や図書での公表や、多数の招待講演などが行われていて積極的な情報発信に努めていると認められる。また、携帯電話に応用され実用化が進んでいることが大いに評価される。</p> <p>なお、「当初目標を超える研究の進展がある」とするためには、顕著で独創性が際立った研究成果が求められるが、現時点ではそのレベルの研究成果が得られているとまでは言えない。</p> | |

【平成26年度 検証結果】

| | |
|------|--|
| 検証結果 | <p>研究進捗評価結果において見込まれた研究成果が得られ、研究論文、学会発表、招待講演などで公開されている。学術的には、スライディング転移などの興味ある新現象が見いだされており、ミクロな環動ゲル構造とマクロな物性との間の関連性についてもいくつかの興味ある知見が得られている。ただし、基本概念は先行プロジェクトで既に得られているものであり、期待していた研究期間後半でのエポックメイキングな成果は必ずしも明瞭ではない。したがって、基盤研究（S）の趣旨に照らして当初の目標に対し、期待どおりの成果があったとまでは言い難い。</p> |
| A- | |